

| 第2回北区公共施設再配置方針検討委員会 議事概要 | |
|--------------------------|--|
| 日時 | 令和6年8月26日（月）15：30～17：10 |
| 場所 | 第一庁舎 庁議室 |
| 出席者 | 学識経験者3名、委員5名（3名欠席）、事務局4名 |
| 次第 | 1. ごあいさつ 2. 確認事項 3. 公共施設のマネジメント方針について 4. 削減目標について 5. 施設類別・エリア別の記載について 6. 今後の予定 7. その他 |
| 内容 | <p>1. ごあいさつ</p> <p>2. 確認事項</p> <p>○議事概要の確認及び公開について →前回の議事概要を検討委員会で確認後、都度 HP に公開する</p> <p>3. 公共施設のマネジメント方針について</p> <p>○全体構成や新たに加える内容について</p> <p>（質問・意見等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「<u>建設コストの削減・適正化への取組み</u>」は、初期投資の削減も大事だが、「<u>ライフサイクルコストの削減・適正化</u>」とした方が良い。 →トータルコストを考える上でスタートが大事との意図であった。初期投資だけでなくトータルコストだと分かるように表現を修正する。 ・コスト削減が前面に出ている。<u>多機能化・多目的化は、限りある空間や資源を有効活用・効率化することができ、その結果コストが下がる、というロジック。</u>総合管理施設計画ではサービス水準の維持が大きな目的で、効率的に取り組んだ結果、施設総量が減りコストが削減されるというロジックにしないといけない。 →現行計画はいかに減らすかという視点だが、改定では、まず既存施設を有効活用し、次に総量抑制・コスト削減とするなど工夫する。 ・<u>セーフティネットなどは公共部門がしっかり担当し、公民連携で民間部門にプラス α をやってもらい、サービスを「向上させる」ことが重要。</u> （他自治体の取組例：公営住宅の一部を定期借家する、職業訓練等のプログラムとセット） ・現行のサービスに捉われるのではなく、80年使うことを前提に将来は多目的に利用できる建物にしなければいけない。使い方などを視点を掲げておかないと、基本方針の施設類別でうまく表現できないだろう。 |

- 区営住宅は、戸数を減らさず民間賃貸をみなし公営とする方法もある。また、公営住宅のトレンドは単身高齢者世帯の増加であり、戸数が変わらなくても最低居住面積は減少するため、総量が減ることも考えられる。

→次回以降、区営住宅について所管課の考えをまとめた施設類別の方針を示すので、その中でご意見を反映する。

- 「建設コスト削減・適正化」の「適正化」という言葉は民間では「足りない分をきちんと払う」というイメージになるので、言葉の用法に注意が必要。

- 「コスト抑制」はやめた方がいい。「総量抑制のための3つの方策」から見直して、「用途転換」の後に「多機能化・多目的化」と「集約化・複合化」が並び、次いで「統廃合・廃止」、その後に「DX」や「民間施設の活用」、さらに施設を持たなくても可能なサービスとすると全体が整理される。現行計画は総量削減が前提だが、機能やサービスから考えていく。

→総量抑制のために複合化等を進めてきたが、実際は面積が増加している。総量抑制という視点は持ちつつ、施設ありきではなく、多目的化・有効活用の視点やDXなど新規項目も整理して、次回改めて案として示す。

- 新しい時代のサービスを提供することをベースに、公共が施設を持つ必要性も含めて整理し、次回議論したい。各委員の考え方では、総量・コストの問題ではなく、様々なサービスに対応する必要性がまずある。それを誰が担うのかがその次で、そのための公民連携あるいはDX。ただし全てを公共部門が引き受けられないことは明確に示し、義務教育やセーフティネットのコスト、投資的経費の余力等を踏まえて、どこまでサービスに対応できるかを記載すると良い。

4. 削減目標について

○目標の設定方法について

(質問・意見等)

- 財政状況について、数値の裏付けのもとに抜本的な改革をしていかないと難しいのではないかと。

→財政面については、投資的経費の財源に裏付けはない。あくまでも過去10年間の支出から仮定しているが、20年となると予測は難しい。財政計画を作れない中でどう目標設定していくべきかご意見をいただきたい。

- 「抑制します」と言っても抑制しきれず増加しているのが現状。ある程度の目標を定める必要がある。財政が豊かな区でも数値目標を定めているのだし、何らかの具体性のあるものにしないといけない。

- 財政制約の中でやりくりする手段として、総量の削減一点張りなのが課題。施設を何%削減というのは目安にはなるが、量を減らすのか、公共部門が持つ必要があるのか、その仕分けをしなければいけない。総量削減はあくまでも財政制約が見える化するための目安。

- 目安を延床面積ではなくコストにしてはどうか。民間に任せることでコスト削減というやり方も可能になる。

→経費・コストの削減を挙げている区は2つある。

- 削減目標がない計画というわけにはいかない。
- 集約化を進めても、良質な施設を建設すれば面積は当然増加するので、総量削減という目標に矛盾があった。区庁舎の建替え等を踏まえれば総量で縛るのはいかながなものか。一方、単価が上がっているのでコストで括るとさらに厳しくなる。
- 一つの考え方としてイギリス財政には景気動向を踏まえて財政やGDPの伸び率の範囲内に抑えるコントロール・トータルという言葉があり、景気条件を前提に考える際には有効ではないか。タガが外れないよう何らかの目標は立てた方がいい。
- コントロール・トータルは、国ならGDPだが、区なら人口・生産年齢人口と財政をベースに計画を立てるのが望ましい。

- 結論でいうと「施設の総量で」というのは違うというのが委員会としての意見。ただし、制約があることは示さないといけないので拘束的ではなく目安として目標を示す。表現としては人口や税収など定量的なものも示した方が良いが、現在の傾向が永続的でないことは示すべき。
- 総量だけにならないようにしたい。「目標」とするかは別として定量的な拠り所は人口、財政状況、投資的経費の何パーセント等の表現としたい。改めて個別にご相談する。

5. 施設類別・エリア別の記載について

○記載の様式について

(質問・意見等)

- 公共施設再配置方針の検討のために施設類別の立地を示すのは有効な方法だが、万遍なく配置する必要があるかは検討の余地があり、稼働率・利用状況も見せながら、公共交通による補完も踏まえて考え方を整理する必要がある。
 - エリア・デザインはここに記載するのか。
- 区として方針を示せる機会が今回のタイミングなので、本計画で頭出ししたい。
- 施設類型別の書き方がハードから始まっているが、類型施設全体の抱える課題を地域別に記載して、ソフトの課題、その上でハードの課題というのが自然と考える。エリア・デザインにつなげるなら各地域の話から入っていく方が分かりやすい。
 - コストが入っていないので、実際のコストも入れてほしい。

- 様々な施設類型があるが、この構成項目で基本的な考え方が全て示せるのか。
- 項目自体を整理しようとは考えておらず、項目の順番も含め、全ての施設にあてはまるとも考えていないので、全体の考え方を確認いただきたい。
- 次回、11月に第3回を開催